

# FAMILY

◆富士通ファミリ会 2024 年度秋季大会\_オープニング

創立 60 周年の節目に進化する「FUJITSU ファミリ会」の新たな挑戦



2024 年度 FUJITSU ファミリ会秋季大会が 2024 年 10 月 24 日と 25 日の 2 日間、紅葉に彩られた北の大地・北海道・札幌で開催されました。今回はファミリ会創立 60 周年の節目の大会、札幌での開催も 2014 年以来の 10 年ぶりとあって、全国からファミリ会会員企業をはじめ、富士通の経営陣や各業界の有識者が一同に会し、会員間のつながりによる新たな価値創出を目的に、「サステナビリティ・トランスフォーメーション」をテーマとした活発な意見交換やディスカッションが繰りひろげられました。

ファミリ会とともに  
サステナビリティ・トランスフォーメーションに邁進していきたい

ファミリ会紹介動画の後にファミリ会 佐藤会長と富士通 時田社長が登場し、がっちり握手を交わして秋季大会がスタートしました。

オープニング挨拶に立った FUJITSU ファミリ会 会長 第一生命テクノクロス株式会社 取締役会長の佐藤 智氏は、「創立 60 周年を一つの契機に、ファミリ会を新たなユーザー会へと変化・進化させるため、会則を大きく変えています。進化したユーザー会となるために、これまで以上に富士通の支援と協力をお願いしたい」と述べ、社会情勢の変化に合わせ、ファミリ会も変化・進化を続けていることを示しました。



FUJITSU ファミリ会 会長  
第一生命テクノクロス株式会社  
取締役会長 佐藤 智氏

# FAMILY

続いて登壇した富士通 時田 隆仁代表取締役社長 CEOは、富士通が2025年に90周年を迎えることに触れ、「100年、さらにその先へと歩みを進めていく中で、ファミリ会とともにサステナビリティ・トランسفォーメーションに邁進していきたい」と語り、富士通とファミリ会との連携の大切さを強調しました。



富士通株式会社  
代表取締役社長 CEO  
時田 隆仁

## ファミリ会から「Fujitsu User Community」へ 新たな一步を踏み出すためのきっかけとなる大会に

時田社長に続いて佐藤会長が再登壇し、60周年を迎えたファミリ会の「変革」について説明しました。大きな変革として佐藤会長は、2024年5月に会の目的を「会員企業の課題解決に向けて、会員と富士通が共に考え、研究、討議、実践し、解決につなげることで、会員企業の利益増進、地域及び社会の成長、発展に寄与すること」に変更したことを紹介。目的変更にともない、ファミリ会という名称が家族的で限定的な印象を与え、新たな活動目的を反映しきれないという意見が寄せられたことも踏まえ、名称の変更も検討しました。そして、複数の候補の中から「Fujitsu User Community」を新名称とすることを発表しました。



2025年4月1日から「Fujitsu ユーザーコミュニティ」となって新たなスタートを切る

佐藤会長は、最後に「秋季大会では、変革で生まれた「イノベーション部会」、「物流部会」、「AI部会」、

# FAMILY

「人事部会」、「サステナブル部会」、「企業経営部会」の6つの部会（コミュニティ）での継続的な活動につながる様々なメッセージやインサイト（気づき）、知見が発信されるでしょう。発信された内容をこの場限りにせず、これから始まる『Fujitsu User Community』の活動の第一歩としたい」と話し、降壇しました。

## 秋季大会をコミュニティ活動につなげる



懇親会場では、部会ごとにテーブルわけをしています  
支部の枠を超えた交流が活発になることを期待しています

関係省外機

11/ 13

支部の枠を超えたコミュニティでの活動で交流がますます活発になる

来賓として登壇した北海道副知事の濱坂 真一氏は、北海道が再生可能エネルギーの潜在的導入量で国内トップクラスであること（※1）に触れながら、GX 金融・資産運用特区の指定を受けるなど、GX 産業の集積に注力していることを説明。「ファミリ会の約 3,500 社の各社が培ってきた豊富な知識と深い見識、技術を生かし、DX や GX の推進をはじめさまざまな社会課題の解決などにともに取り組んでいきたい」と今後の期待を示しました。



北海道副知事  
濱坂 真一氏

※1 :参考：北海道庁広報誌より

# FAMILY

オープニングの最後に登壇したのは、開催支部である FUJITSU ファミリ会 北海道支部の支部長を務める株式会社北海道新聞社執行役員制作局長の村上 孝志氏です。村上支部長は「本大会が、会員各企業が抱える課題の解決と、地域の活性化に貢献できる契機となることを強く願っています」と期待を語り、オープニングを締めくくりました。



株式会社北海道新聞社

執行役員 制作局長

村上 孝志氏